

## 研修会報告

「米国のテロ情勢等：Terrorist threat in the United States」

4月23日(金)

講演：工藤 陽代 氏 (Kiyo Kudo)

Counselor, Political Section, Embassy of Japan

研修担当理事：入戸野 匡彦

4月23日(金)、ワシントン日本商工会は日本大使館政務班の工藤陽代参事官をお招きして、ウェビナー“米国のテロ情勢等：Terrorist threat in the United States”を開催しました。1月6日の米議会襲撃事件以降、米国内での新たなテロへの懸念が高まりつつあることもあり、当日は約50名以上の方にご参加いただきました。

工藤陽代氏は東京大学法学部をご卒業後、警察庁に入庁、神奈川県警察本部外事課長、内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当)付参事官補佐、在イスラエル大使館一等書記官等のご要職を経験され、渡米前は警察庁外事情報部・国際テロリズム情報官として、国際テロ情勢についての分析に従事されていたと伺いました。

当日の講演では、国際テロ情勢(アルカイダ、イスラム国【ISIS】)、欧米諸国における直近のテロ事案、米国内のテロ情勢についてのご説明をいただきました。特に米国内のテロ情勢については、外国テロ組織等に関連/感化された“国際テロ”、国内事象に係るイデオロギーに基づく“国内テロ”に分けて、それぞれ主な事案、背景、今後の見通し等をご解説いただきました。特に1月6日の米議会襲撃事件については、アカデミアによる被訴追者のプロフィール分析についてご紹介いただき、報道等とはまた違った興味深い背景を知ることができました。質疑応答では、コロナ禍における外国政府とのテロ対策の連携、フランスにおけるテロの背景、日本国内におけるアルカイダ/イスラム国【ISIS】の活動有無、米国内の治安維持組織への不信感が及ぼすテロ対策への影響等についてご回答いただきました。また、我々が直面する可能性のあるリスクとして、銃撃に巻き込まれた際の基本動作、出張者アテンド時の心構え等の実践的なアドバイスもご教示いただきました。今回の講演では、“テロ”は遠い異国の出来事ではなく、地政学、国内の社会経済情勢、人種・民族、イデオロギー等が複雑に結合して常にどこでも起きうる事案であり、常に情報収集を行い、場合に応じた柔軟な行動が必要となることを痛感しました。

